

apo

Product for Clients

Career Power Life & Information Plaza

Powered By CareerPower 株式会社 キャリアパワー

Vol. 98

2023.10 OCTOBER

留まることのない一貫した人間教育 学園の改革、そして更なる発展へ

椋山女学園大学

総務部 部長

加藤 珠穂様

椋山女学園大学短期大学部を卒業
卒業生として母校に入職



1905年に開校した名古屋裁縫女学校を起源とし、以来、120年近くの歴史をもつ椋山女学園。時代に応じて、その教育内容を変化しつつ、一貫して「女性により高い教育の機会を提供する」ことを目指し、現在では、保育園、こども園、幼稚園から、小学校、中学校、高等学校、大学、大学院を備えた総合学園に発展しています。取材させていただいた星が丘キャンパスへ続く道は、休日には小さな子どもをつれたご家族や若者がたくさん集まるとも賑やかなエリアとなっているのも特徴のひとつです。2024年には、新学部・学科の設置を予定するなど、大きな変革を続けておられます。今回はそんな椋山女学園大学で総務部長を務めておられる加藤様に、お話を伺いました。

本校では、「人間になろう」を教育理念とし、一貫した人間教育を進めてきました。「ひとを大切にできる人間」「ひとと支え合える人間」「自らがなされる人間」の3つを「人間になる」ことであると考え、自ら考え学ぶことにより、「なろう」とする決意を表明し、実践できる自主性・主体性を育てています。120年近くの歴史の中、留まることなく社会の要請に応えながら、その教育内容を変化させ、歩んできました。

本学は私の母校でもあります。今はもう閉校してしまったのですが、私は椋山女学園大学短期大学部を卒業しました。椋山女学園には、卒業と同時に入職しました。長い月日があったという間に過ぎてしまいました。入職後は、大学事務部で庶務の業務を担当し、その後は、人事課主任、現代マネジメント学部事務室長、キャリア支援課長、再び人事課の課長を経て、現在は、総務部の部長を務めています。

女性が自立した生き方を選択することを目指す本学において、私自身の役割は、総務部長としての職責はもちろんのこと、その他に3つあると考えています。1つは卒業生であること。2つ目は、女性として役職についていること（卒業生として初めて部長職を拝命しました）。そして3つ目は、子を持つ親であるということです。本学は女性活躍推進法に基づく一般事業主計画の目標として、役職者における女性職員の割合30%以上、という目標を掲げ、これを維持しています。女性が自立

した生き方を選択し、社会で活躍できる、ということをお学生さんたちにも、身をもって示していければと思っています。

トータルライフデザイン教育を 実践 新学部・学科を2024年に 開設予定

椋山女学園大学は、現在、7学部11学科を設置する女子大学です。本学では、トータルライフデザイン教育を掲げており、女性が仕事と生活の最適なバランスを図りながら、結婚や出産などの転機での自分らしい選択を支援し、社会での自立した生き方、そして自ら考え判断できる女性として社会に貢献できる力を育てています。2024年に新たに、外国語学部英語英米学科・国際教養学科、人間関係学部人間共生学科、情報社会学部情報デザイン学科・現代社会学科*の開設を予定しています。それぞれ、トランスナショナル化、多様性と包摂、デジタル化や持続

可能性など、今の社会が直面している幅広い問題領域について学べる機会が多く設けられています。情報社会学部の設置に関連しては、「令和5年度大学・高専機能強化支援事業（学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）」に採択されています。

*情報社会学部情報デザイン学科・現代社会学科
(設置申請中)

また、学部・学科の改組に先立ち、2022年度から、新しい椛山女学園としてのイメージを打ち出すための、ブランディング活動を進めています。教育理念である「人間になろう」を組み込んだ新しいコミュニケーションマークを制定。さらに、タグライン「私を選ぶのは、わたし。」を設定し、自分の将来を自分で選ぶ、選択する時に能動的に活動していくことを表現しています。また、女性の自立した生き方について、自ら答えを出し、能動性を育む大学であることと、女性が社会に参画する認識を高め、当事者意識をもって、世の中の当たり前を変えていく事が出来るような学生を育てていくことを象徴しています。

Sugiyama

▲コミュニケーションマーク

これからも様々な取り組みを進めていきたいと考えています。

また、本学では、18歳以上の一般女性に図書館を利用いただけるようなサービスを行っていて、生涯学習や研究活動を支援しています。開けた大学図書館として、地域との連携を図っています。

新たな気づきを大切にしています

御社のスタッフの皆さんには、図書館業務において、様々な場面でお世話になっています。本学でも20年ほど前から派遣スタッフの方にお世話になり始めました。当初は職員の産前産後休暇、育児休業の代替がメインでしたが、現在では職員の代替ということだけでなく、様々な場面で派遣スタッフさんに活躍していただくようになりしました。特に専門知識を必要とする業務においては、経験を活かしながら活躍いただいているので非常に助かっています。また、外部の情報を得る機会が少ない中、キャリアパワーさんからは、様々な意見を頂くことができ、私たち職員の学びへとも繋がっています。日々、ルーティン業務を行っていると、それが当たり前となってしまいますので、新たな気づきはとても大切です。すぐに良い方向へと転換できるわけではあり

私を選ぶのは、わたし。

▲タグライン

地域社会と共生していく大学を目指しています

主体的に社会と関わり、自発的に学ぶことができる学生を育てていくなかで、地域社会との共生は重要なものであると考えています。

キャンパスを囲む星が丘の街は、賑やかでとても雰囲気の良い場所です。大学を訪れる方々が「学生さんの街ですね。」と口にされることが多く、本学に続く街並みに良い印象を持たれるのですが、私が学生として通っていた頃の周辺施設は、スケートリンク、ボウリング場のみで、今のように整備された環境ではありませんでした。そこから、少しずつ整備され、活気が生まれ…。学生がいたから地域が活性化していったということもあるかもしれませんが、現在の本学のイメージを支えてもらっていることには間違いありません。オープンキャンパスにおいても、実際に足を運んでいただくことで、星が丘の街を含めて、高校生には本学の魅力を受け取ってもらえています。ありがたいことに星が丘の街にずっと育てても

ませんが、視野が大きく広がることはメリットであると感じています。

学生の目線に合わせたサービスを提供

図書館スタッフの所属は、本学の職員、派遣スタッフさん、委託のスタッフさんなど、それぞれですが、学生からみると同じ図書館のスタッフです。学生に満足してもらえるサービスを提供するためにも、コミュニケーションを大切に、相手の目線で物事を見るということが必要であると考えています。活発に話しかけてくれる学生もいれば、こちらからアクションを起こさなければ、反応をしてくれない学生など、様々です。相手に寄り添った対応をしていくために、人を大切に自主性、主体性を持って行動することは、とても大切です。これは、教育理念の「人間になろう」は学生だけではなく、私たち職員や図書館スタッフにも同じことが言えるということだと考えます。御社のスタッフの皆さんには、日々のルーティン業務で忙しい中でも、学生を始め利用者の皆さんに図書館を好きでいてもらえるよう、それぞれの目線に合わせた接し方や、対応を意識していただき、より良いサービスを引き続き提供頂きたいと考えています。

らっていると私は思っています。本学が発展し、地域が活性化していくためにも、今後の関わりは必要不可欠になると思います。地域と連携し、その発展に貢献するということにも力を入れていければと考えています。

知識環境と読書環境を充実 最適な設備が整えられた図書館

御社に委託をお願いしている、本学の中央図書館と日進図書館は、本学が設置する学部の様々な学問領域に対応すべく、約48万点もの多種多様なジャンルの資料を所蔵し、管理しています。学びの段階に応じて、最適な設備も整えられており、各種オンラインデータベースの利用による情報収集の環境を整え、中央図書館にあるラーニングコモンズでは、学生が討論しながら学修を進めることができ、主体的な学びを支援する場を提供しています。一方、日進図書館は、1学部のみであることから、こじんまりしていますが、とてもアットホームな空間で、学生が落ち着いて学修に取り組むことができます。本学がジェンダーに関する研究に力を入れていることもあり、ジェンダーや女性学関連の図書を別置するなど、資料の収集や配置においても本学らしさを出せるよう工夫しています。学生にとっての学修の場を提供することはもちろん、知識環境、読書環境がより充実されるよう、

DXの活用などを検討、創造的な仕事へシフトしていく

大学図書館含め事務の業務では、より良い効率化のために、データの管理方法などにおいて、様々なシステムを構築しています。大学の事務作業においても、ペーパーレス化などの課題があり、DXの活用を考え、デジタル化に追いついていかなければならない状況です。

システムの導入による省力化のメリットはたくさんあるのですが、その分、データの扱い方など細心の注意を払わなければならない場合がたくさんあります。現在、本学として、具体的な方針が決まっている訳ではありませんが、DXの活用についてのメリットやデメリットを見極めた上で、ルーティン業務を単純化できる、効率の実現を目指し、ミスのないスピード感のある仕事ができるようにしていきたいと考えています。様々な変化に対応していくために、私ども大学職員は、常にアンテナを張っていますが、御社のスタッフの皆さんが最新の情報を得た場合は、是非本学とも共有していただきたいと思います。たくさん目で見えた情報を取り入れ、創造的な仕事にシフトしていくことで、本学の更なる発展に繋がってほしいと考えています。

立正大学図書館刊行『古今善本録』のデザインを キャリアパワースタッフが担当



令

和 4 年に開校 150 周年を迎えられた立正大学。その記念として、『立正大学図書館古今善本録～蔵書が伝える図書館 150 年の軌跡～』を刊行されました。開館以来の歴史と立正大学が誇る蔵書の紹介がまとめられた資料では、立正大学図書館のあゆみを知ることができます。今回は、製作に携わられた立正大学図書館課長の水上裕子様と、キャリアパワースタッフの黒田陽子さんにお話を伺いました。

(右) 立正大学図書館 品川学術情報課 課長 水上 裕子様

(左) ㈱キャリアパワースタッフ 黒田 陽子さん

■『古今善本録』製作への経緯

水上様 本学は昨年、開校 150 周年を迎えることができました。図書館では、これまで展示などで貴重書をご紹介する機会があったのですが、貴重書をまとめた図録などはなく、予てより図書館の蔵書の魅力を伝える図録を発行したいという強い思いがありました。初めは、図書館発行物『シリーズ・アタラクシア』の特別版として、製作を考えていましたが、どんな本を作っていくか考える中で、掲載したい蔵書が本当にたくさんありまして…。開校 150 周年という事もあり、「150」の数字にこだわり、150 点の蔵書を紹介することになりました。また、蔵書の中には、文庫として登録されている資料もあり、蔵書から見えてくる図書館の歴史も含めた 1 冊にすべく、第 1 部「善本 150 選」、第 2 部「図書館の歴史」とする 2 部構成の『古今善本録』が誕生いたしました。

■オリジナリティを追求

水上様 『古今善本録』で注目して頂きたい点は、資料それぞれに特徴がありますので、1 つに決めることは難しいのですが、本書の各章の扉、帯、年表など、全体のデザインに注目をして頂きたいです。デザインの素材はすべて図書館の蔵書および蔵書印からセレクトされたオリジナルなんです。このデザイン全てを黒田さんに担当していただきました。

黒田さん 以前から、展示会のパンフレットの作成には携わっていたのですが、本のカバーのデザインなどは初めての経験でした。まず、最初に水上課長から本の構成を伺い、大きくは 2 部構成、内 1 部は、7 章に分かれているとのことで、テーマカラーとして、7 色の組み合わせを作りました。本を側面から見た時に、7 色が見えるようにし、見つけ易さやめくり易さを追求したり、また、各章の帯には、注目すべき蔵書の一部を組み合わせ、オリジナルのデザインを作成するなど、すべてのデザインにおいて立正らしさが表現できていると思います。

水上様 黒田さんの図書館の資料に対する向き合い方は、とても熱心なものです。オリジナリティを追求したいという我々の想いを汲み取って、デザインに落とし込んでもらいました。各章の扉を見れば、その章の中に何が詰まっているかというのがわかり、1 つ 1 つにたくさんの想いが込められています。本のカバーの裏に載っている図書館年表も、図書館の歩みを表す素敵なデザインとなっています。製作過程では、タイトルの変更があったり、資料の掲載ページの変更がギリギリまであったり、デザインとして落ち着くまでとても大変だったと思います。

黒田さん そうですね…。変更があった時は、やはりデザインも大変なのですが、なにより内容が最優先なので、蔵書を引き立たせるレイアウトを考え、修正していくのが大変でした。ですが、以前、展示のパンフレットを作成した経験から、展示資料なども目にする機会があったので、「あの、資料の挿絵があったはず！」など、過去の経験がアイデアの材料となり、デザインの役に立ちました。

■『古今善本 150 選』展示会を開催

水上様 『古今善本録』を刊行できたのは、私たち職員だけではなく、学長はじめ先生方やキャリアパワーのスタッフの皆さん、学生協働団体りぶたま、書店、古書店さんなど、本当にたくさんの方々のお力添えがあったからです。蔵書目録というと、難しいイメージがあるかもしれませんが、ちょっと見てみようかなという思いにさせる仕組みが詰まっていますので、たくさんの方に手に取って頂きたいです。

2023 年 10 月 4 日から 2024 年 5 月 13 日に、『古今善本録』の出版を記念して、企画展『古今善本 150 選』を開催します。展示会では、ご執筆いただいた先生のご講演やスタンプラリーなども開催予定で、どなたでもご来場いただけます。会期ごとに、展示内容も異なりますので、どの時期に来ても楽しんでいただける展示会となっています。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



『古今善本 150 選』展示会の詳細は
左記 QR コードよりご確認ください。

https://www.ris.ac.jp/library/learn/shina_event.html

図書館バーチャルツアー「大阪工業大学図書館 大宮本館」

2023. 11/14(金) 14:00 - 14:45 予定 お申し込み受付中

1 922年に創設された関西工学専修学校を前身とし、1949年に設立された大阪工業大学。今年7月、淀川沿いに設けられた大宮キャンパス内に新図書館がオープンしました。キャリアパワーでは、この新図書館のバーチャル見学ツアーを11月に開催いたします。最新設備やデザイン上の工夫など、その全貌をライブ配信形式でご案内いたします。また、当日は、ライブ配信に加えチャットでのご質問も受け付けます。大学の新たな「知の拠点」として生まれ変わった最新図書館をぜひご体



左記応募フォームよりお申込みください
<https://form.run/@careerpower-AjuZHWJ0ug3UfLffyD7G>



大阪工業大学図書館 大宮本館について

2023年7月にリニューアルオープンしたばかりの大阪工業大学図書館大宮本館。「人と本、人と人が交わる知の広場」をコンセプトに設計されており、グランドキャニオンを連想させる吹き抜け空間に360度図書に囲まれたダイナミックな雰囲気が特長です。各フロアとも自動で図書の貸し出し、返却ができるなど、利用者の利便性にも配慮がされており、それに対応した最新型の機材も導入されています。また、併設されたラーニングcommonsは、個人学修をはじめ、グループ学修やゼミなど幅広く活用されています。

びわこペーロン大会に出場しました

キ キャリアグループとして、26年連続で出場しているびわこペーロン大会に、今年も出場しました。部門やエリア、グループ法人を超えたメンバーが、広々とした琵琶湖湖畔で一丸となってレースに臨みました。レースが始まると、集まったメンバーやその家族からは、大きな声援が上がっていました。また、レース後の懇親イベントでは、バーベキューを開催！ボールすくいやビンゴ大会が行われるなど、充実した1日となりました。



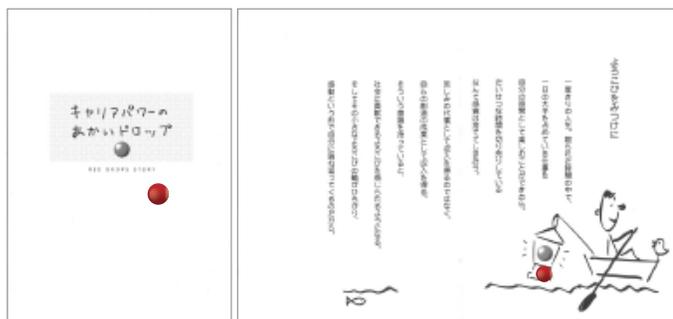
■ Red Drops

ご存じですか？ キャリアパワーのあかいドロップ

「This We Believe…」わたしたちキャリアパワーの信じるところ。その思いから生まれた小さな冊子が「キャリアパワーのあかいドロップ」です。出会うことができたすべてのスタッフの皆様の方に、私たちの思いをお伝えしたい。そして、一人でも多くの方の心に、その思いを留めてほしい。ずっと変わらぬ思いでお届けしています。ぜひご愛読ください。

ご希望の方に配布中です

☎ 0120-288-450 info@careerpower.co.jp



■ Seminar Information

ご登録者を対象に、オンラインセミナーを定期開催しています

これまでの開催テーマ

EXCEL 講座

ショートカット、置換、COUNTIF、書式設定
条件付き書式、VlookUp
グラフ作成
ピボットテーブル
マクロの基本講座
ブルダウンリスト
印刷設定、ブックの保護、パスワードのかけ方
オートフィルタ（並び替えと抽出）
知っている便利な関数（ROUND/MAX/SUMIF など）

WORD 講座

文字入力、書式設定、印刷設定
文章レイアウト（段組み/インデント/箇条書き）
表作成、差し込み印刷

PowerPoint 講座

画面切り替え、アニメーション、スライドショー

いまさら聞けないシリーズ

Zoom（基本操作、アカウント設定）
LINE、Instagram、Twitter、YouTube
ビジネスマナー、電話応対など

毎

週火曜日と木曜日の週2回、登録スタッフの皆様に向けてオンラインセミナーを開催しております。内容は業務に関連するソフト操作などが中心。ご自身のスキルアップに、お持ちの知識のおさらいに、ぜひご活用ください。開催情報はメールにて随時お知らせ。もちろん参加無料ですのでお気軽にご参加ください。

詳細はメールでお知らせ
参加無料
ご予約不要



法令順守委員会

キャリアパワーは、労働者派遣法や労働基準法など各種労働法令を遵守し、常に適正な事業運営を果たすために、社内に法令遵守委員会を設置しています。定期的に派遣先を巡回、また社内監査を行ないながら、派遣契約内容を改めて見直し、法令の遵守が出来ているかの再チェックを行なっています。また、全社員に対して法令知識向上とコンプライアンス遵守の意識強化のために、定期的に研修会や勉強会を実施し、コンプライアンスの課題解決や事前防止の徹底を図っています。遵法精神を貫くことで、当社で働く派遣労働者、そして人材派遣を利用される全ての派遣先企業様に、よりいっそう満足して頂ける様、活動を行なってまいります。

派遣コンプライアンスに関する問い合わせ先

TEL 075-341-2929

MAIL support@careerpower.co.jp

キャリアパワー各支社へは ☎ 0120-154-450 にお気軽にお問い合わせください

東 京	〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-7-2 東京サンケイビル 15F	TEL 03-6895-2929	FAX 03-6895-2911
大 阪	〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田 1-12-17 梅田スクエアビルディング2F	TEL 06-6346-2929	FAX 06-6345-1268
名 古 屋	〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅 3-25-9 堀内ビル8F	TEL 052-563-2929	FAX 052-563-3511
京 都	〒600-8216 京都府京都市下京区堀小路通烏丸西入東堀小路町 843-2 日本生命京都ヤサカビル 4F	TEL 075-341-2929	FAX 075-341-3828
滋 賀	〒525-0037 滋賀県草津市西大路町 2-5 Nビル5F	TEL 077-516-2929	FAX 077-516-2930
システムセンター	〒600-8269 京都府京都市下京区七条通堀川西入八百屋町160	TEL 075-344-6776	FAX 75-344-6780

発行

株式会社キャリアパワー

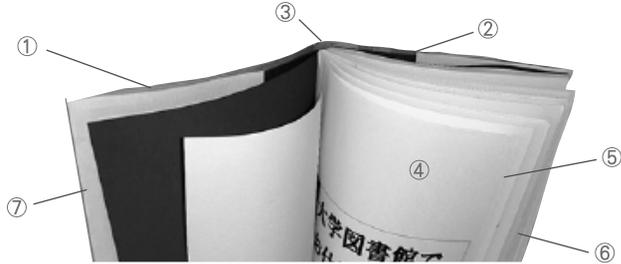
企画 / 制作

株式会社キャリアクリエイト

2023.6.1 発行

Vol.XXIV 目録における各部位の名称

目 録業務の中で、必ずと言っていいほど目にする「～はジャケットによる」「背に〇〇とあり」といった記述。洋書誌だと、「t.p. verso」「Colophon」などもよく見かけるかと思いますが、見慣れてくると何となくどこを指しているかはわかってきますが、いざ自分で目録を作成する時になって「この部分の名前はなんだろう、どう書けばいいのだろう」と手が止まってしまうこともあるのではないのでしょうか。今回は、そんな時に是非役立てていただきたい、「和書・洋書の各部位の名称」について説明します。



和書		洋書
表紙	①	cover
裏表紙	②	back cover
背	③	spine
標題紙	④	title page (t.p.)
標題紙裏	⑤	title page verso (t.p. verso)
奥付	⑥	colophon
ジャケット	⑦	jacket

①表紙 (cover)



本の中身を保護する外装で、読む際に開き始める側を指します。ここにしかない形のタイトルは、VT:CV: として記述することができます。また、重要そうな情報が表紙にのみ見られる場合は、以下のように注記します。
(和書の場合) NOTE: 表紙に「〇〇〇」とあり (洋書の場合) NOTE: "〇〇〇" --Cover

②裏表紙 (backcover)



①表紙 (cover) の反対側、読み終わって本を閉じる側にある方を指します。ここにしかない形のタイトルは、VT:BC: として記述することができます。また、重要そうな情報が裏表紙にのみ見られる場合は、以下のように注記します。
(和書の場合) NOTE: 裏表紙に「〇〇〇」とあり (洋書の場合) NOTE: "〇〇〇" --Backcover

③背 (spine)



本の綴じを保護する外装部分。棚に並んだ際に一番見られる場所でもあるので、背だけにしかないタイトルやキャッチコピーを持つ本もあります。ここにしかない形のタイトルは、VT:ST: として記述することができます。また、重要そうな情報が背にのみ見られる場合は、以下のように注記します。
(和書の場合) NOTE: 背に「〇〇〇」とあり (洋書の場合) NOTE: "〇〇〇" --Spine

④標題紙 (title page)



本文の前にある、タイトルや著者名、出版社名が書かれたページのこと。洋書の場合、標題紙の前にタイトルのみが書かれたページがあるものがほとんどですが、これは bastard title と呼ばれ、情報源として採用されることはありません。和書では、ここにしかない形のタイトルは VT:TT: として記述することができます。一方、洋書は標題紙から主タイトルを採用するので、こういった記述は減多に使いません。また、標題紙にのみのっている情報を注記する際も、他の場合とは異なります。

例) NOTE: "〇〇〇"--T.p ×
NOTE: "〇〇〇" ← 標題紙の引用注記には出典場所を書かないのが正解

⑤標題紙裏 (title page verso)



名前の通り、④標題紙 (title page) の裏面です。和書と洋書の大きな違いとして、和書は標題紙裏は白紙であることが多いのに対し、洋書はここに出版地や発行年などの出版情報が記されていることがほとんどです。ここにしかない情報を記録する際は、NOTE: "〇〇〇"--T.p. verso といった書き方をします。(洋書のみ) 和書の場合は、例えば翻訳本ではない資料の英語タイトルが標題紙裏にあった場合は、VT:OH:NOTE: 欧文タイトルは標題紙裏によると記述します。

⑥奥付 (colophon)



出版地や発行年などの情報が記載されたページです。和書の場合は、本の末尾にあります。洋書は前述の通り、標題紙裏が奥付の役割を果たしていますが、稀に洋書でも巻末に出版情報が記されていることがあります。ここにしかない形のタイトルは、VT:CL: として記述することができます。また、重要そうな情報が奥付にのみ見られる場合は、以下のように注記します。

(和書の場合) NOTE: 奥付に「〇〇〇」とあり (洋書の場合) NOTE: "〇〇〇" --Colophon

⑦ジャケット (jacket)



front flap of jacket



back flap of jacket

ブックカバーとも言いますが、上記の対照表にある通り、洋書ではカバーは①の表紙を指すので、目録を作成する際はジャケットと表記します。洋書の場合は dust jacket と表記されていることもあります。文庫の叢書番号や、本のレイアウトによってはジャケットの折り返しに奥付情報が記されている時もあります。ちなみに、この折り返しの部分は、洋書では flap と呼びます。表紙側なら front flap of jacket、裏表紙側なら back flap of jacket と書くことで出典場所を明記することができます。和書であれば、文庫の叢書番号 (あ 1-1 など) や、折り返しにのみ記されたシリーズ名といった情報は、以下のように記述します。

・叢書番号 NOTE: 叢書番号はジャケットによる
PTBL: 新潮文庫 <NCID> [あ 1-1]//a (必ず補記ガッコをすること!)

・シリーズ名 VT:OH:〇〇〇シリーズ
NOTE: ジャケットに「〇〇〇シリーズとあり」

洋書の場合は、例えば上記の図のように、裏表紙側の折り返しに出版情報があり、それが標題紙裏など本体の情報源上には見当たらない場合、このように記述します。

PUB: [New York] : [Park Lane]
PUB: [New York] : [Distributed by Crown Publishers], c1987
NOTE: Publishing data from back flap of jacket